

交換留学報告書

派遣先	
三重大学での所属学部・研究科	三重大学大学院工学研究科建築学専攻
学年(出発時)	博士前期課程1年
大学名	ハイデルベルク大学
国	ドイツ
留学期間	2019.09.02～2020.02.19
派遣先での身分	留学生

一日の生活スケジュール(通学時)		
	記入欄	記入例
8:00		
9:00		授業
10:00	タンデム	授業
11:00		図書館で自習
12:00	昼食	昼食
13:00		
14:00		授業
15:00	授業	授業
16:00	授業	
17:00	授業	
18:00	授業	部活
19:00	帰宅	夕食
20:00	夕食	友人と過ごす
21:00		帰宅
22:00		
23:00		
0:00		

履修科目				
科目名	時間数/週	履修単位	使用言語	授業内容(レポート、試験、授業形態等)
Preparatory German Language Course	20		ドイツ語	試験2回
General Language Courses	8		ドイツ語	試験2回

大学のサポート	
チューターの有無	有
チューターのサポート内容	VISA申請・銀行口座開設・住居案内
語学コースの有無	有(9月から1か月間)
コース名、料金、期間等	Preparatory German Language Course

生活	
住居のタイプ	学生アパート
住居の名前	Comeniushaus
部屋タイプ	シェアルーム(2人1室)
ルームメイト(国籍)	ドイツ人
室内設備	キッチン(冷蔵庫・コンロ・シンク)、シャワールーム兼トイレ、リビング(机・イス2つ)
共用施設	ランドリー、卓球場、ホール、ピアノ室
インターネット設備	なし(個人的にwifiルーターを購入)
大学までの交通手段(交通機関、所要時間)	バス(10~15分)
アルバイトの有無	有(Konomi Kafe 日本茶専門店)
アルバイトの内容	ホール

渡航	
Visaの種類	学生ビザ
Visa申請先	Auslanderbehörde(政府機関)
Visa取得にかかった日数	1週間
Visa取得にかかった費用	50ユーロ
Visa取得方法、提出書類等	提出書類 ①パスポートの複写 ②パスポート用写真 ③健康保険(AOKの証明書) ④入学許可通知 ⑤ドイツ銀行の閉鎖口座 ⑥申請書・誓約書
留学先大学の最寄り空港までの経路	フランクフルト空港 ルフトハンザシャトルバス(片道1時間)
渡航費用	学生料金 往復30ユーロ
ピックアップサービスの有無	無

帰国後	
留年や卒業の遅れの有無	無
有る場合、その理由	
就職活動開始時期	2020年1月 ES提出
帰国後の進路	2020年2月後半 面接開始、3月 内定

留学にかかった費用	
現地通貨＝日本円(約)	120
保険料(海外旅行保険、国民健康保険等)	105ユーロ(AOK)×6カ月＝630
学費(教科書代や語学コース授業料等)	教科書代 10ユーロ
宿舍費(月額)	月215×6カ月(家賃)+450(保証金)+30(管理手数料)＝1980
光熱費(月額)	-
食費(月額)	月100×6＝600
その他	交通費 170 学生サービス料金 99
留学期間中にかかった費用の合計	約4000ユーロ(48万円－奨学金8万×6カ月＝実質0円)

感想等(※800字以上で語学勉強の成果についての内容も含め、ご記入ください。)

留学までの経緯

幼少期から留学をしたいという目標は常にあり、大学進学後に本格的に留学に向けて動こうと思っていました。しかし、予想以上に工学部の授業の忙しさ、課題の厳しさに圧倒され、学部時は留学を考える余裕さえなく、目の前の課題や授業に取り組む日々でした。しかし学部4年時に国際シンポジウムに参加し、英語に囲まれる環境の中で生活したことをきっかけに、より「留学したい」と思いました。それから学部4年時に動き始め1年半後の院生1年の後期に留学することが叶いました。

ハイデルベルク大学を選んだ理由

第1言語が英語の国で自身の英語力の向上を希望していましたが、あまり自分に合う大学がなかったです。しかし国際交流センターの担当者の方から「ハイデルベルク大学は奨学金が出て、ドイツ人は英語を拙く話せるからいいよ」と助言をいただき、身内がドイツに移住し、1度滞在したこともあるためドイツ・ハイデルベルク大学を選びました。ハイデルベルク大学には工学部がないため、自身の専攻分野の授業などはありません。しかし世界有数の大学であり、街自体が勉学に励むためにさまざまなサービスを行っている点で、私のように単に「留学したい」人向けの大学でもあるかもと感じました。

ドイツ語・留学に向けての準備

学部1年時に第三外国語としてドイツ語を1年間勉強してから全くドイツ語を勉強していませんでした。だから渡航直前のドイツ語能力は「0」に等しいです。ただ、留学が決定してからSkypeでドイツ語の勉強を週1で行ったり、以前ドイツに短期留学したことのある同期に参考書を借りたりなど行い、基本的な単語(挨拶・旅行中に使える言葉集)は復習した上で渡航しています。渡航後に自身の語学能力を測る事前テストを留学生全員は受けるのですが、その時は何も書けずに終わるまでひたすら待っていました。(人によっては名前だけ書いて帰る人もいました(笑))よって準備コースは一番レベルの低いA1-Cクラスという最底辺からスタートしました。しかしその準備コースは同じような学生が多いので、ABCの読み方から始まり、基本的な学力をつけることができました。もし自身のドイツ語能力に不安がある人は冒険せず、最低レベルから始めるべきです。(日本人学生で筆記テストはピカ1でも、話せなくてストレスに感じていた子が数人いました)

ドイツ語の授業の雰囲気

先生1人:生徒10~15人程度で構成され、発言形式や席順に応えるなど授業体制は先生により異なりますが、ほぼ「話す」ことが求められます。筆記テストがよくても話せない生徒にとっては苦痛かもしれませんが、日本人以外だいたいこの学生さんは書けないけど話せる人が殆どでした。その点でこの発言力が求められる授業は難しく感じますが、回数を重ねるとある程度先生の言いたい事がわかりますし、分からなかったらすぐ聞くに尽きます。発言しにくかったときは隣の子に英語で聞くとかして、対応していました。休憩時間はクラスの子と英語で話すのが基本でした。私の英語は拙いのでいつも助けてもらうことが多いのですが、なんとなくしゃべってたらなんとなく伝わります(笑)仲良くしてくれたのは台湾人などのアジア系からマンガ好きなイタリア人など幅広かったです。でも、やはり英語の勉強をしつかりしておけばとつらくなることは多くありました。ドイツに留学している人のほとんどは英語が不自由なく話せる人が多かったからです。また、授業中に楽しかったのはハロウィンやクリスマスのイベント時期の前だとちょっとしたゲームやランチ形式で授業を行ったことです。やはり授業っぽくない方が気楽ですね。

アルバイト経験

私は11月から1月末までの3か月間だけ日本茶専門喫茶店の「Konomi Kafe」でホールとしてアルバイトしていました。ある程度時間に余裕がつくのが10月後半からであり、オーナーさんが日本に帰国していたなどで、11月スタートになりました。

スタッフは全員日本人だったので、困ったときは日本語もしくは英語で対応できる環境でした。また、ミスをしても優しく時には厳しく指導して下さるので、語学だけでなく接客に対しても大変勉強になった場所でした。私以外にも交換留学生のアルバイトスタッフが数名おり、大変働きやすい環境でした。授業が週2日しかない人は休日やることなく、1日中ずっと勉強、寝てる、YouTube見るに明け暮れる日々を過ごすことも少なからずあります。特に私はインドアが向いていないので、積極的に日本人がオーナーを務める飲食店に片っ端からメールしました。今回は運よくスタッフに空きがおり、働けたのですが、もし働けていなかったらつまらない日々を過ごした留學生活だったなと後悔していたかもしれません。交友関係で楽しむのも1つですが、実際にドイツ語しか使えない場所に身を置くことで、授業やタンデムよりもドイツ語が向上したと強く感じています。

帰国後の就職活動

院生1年時の後期に留学したので、留学期間中にエントリーシートを書いたり、建築特有の作品シートなる自己PRシートを作成していました。渡航前は就職活動に影響して留学しにくいと感じていましたが、実際行ってみるとある程度時間に余裕があるので前もって十二分に準備をしておけば、全然大丈夫でした。ただ、帰国日と各社の面接日が前後し、同期にESを郵送してもらったり、個人的に面談日を設けてもらったり、こちらからお願いする立場で行動しなければならないことが多々ありました。そこは海外にいるからどうしようもないですし、頼れるところはたくさん頼っていきました。帰国後の1週間もたたないうちに面談や試験があったので、面接練習などはドイツでドイツ人と練習しました(笑)どんな境遇の人も事前に準備しておけばある程度対策はできますし、留学をあきらめなくてよかったと痛

今後留学する人へのアドバイス

留学しようかなあ…と悩んでいる学生さん向けのコメントかもしれません。

「留学したいと思うなら、行動あるのみ」

この一言に尽きます。

留学したくても授業が忙しくて、友人と離れるのが悲しくて、留年・就活に影響行きそうで…と後ろ向きの言葉は無限に出てきます。でも留学という経験を通して得られた自分の価値観や交友関係、苦難、感動というものは留学した人じゃないと得られません。また、その後ろ向きな言葉への対策は調べればたくさん策がでてきます。少しでも留学したかったなと思うのなら、今すぐした方が社会人になった時後悔しないし、より自分の魅力に、世界の広さに気付けると思います。

もし学部1年時の自分に会えるなら、もっと早くに行動しなさいと渴を入れるでしょう。なぜ進路を確定する前に自分の力を試さなかったのかと今では疑問に思います。この言葉は院生が留学する事に対して否定的なものではなく、より若いうちに留学・国際交流関係のイベントに参加すべきだという願いがあります。「行きたい会社はどこだろう」と悩み始める学部後半やもう進路が決まっている院生の時に留学に行くのと、まだ進路も未定で真っ白なキャンパスのように何にでもなれる学部前半の方がより世界を広い目で見れるでしょう。私自身留学中に「もっと長く海外にいたいな」と思って親に相談したことがあります。しかし当時の状況ではそれは叶えられる力がなく、就職して自分でお金を貯めてから再挑戦という選択になりました。これがもし学部1,2年生だとしたらどうでしょう。じゃあ今は無理でも来年度行こう、院生になった時にもう一度行こう、就職する前にワーホリしようという選択の幅が広がります。若さとは活動力だけでなく、その後の将来にポジティブに考えられる期間が多くある点で優っていると思います。

三重大大学という国立の海外留学生が多くおり、助成金や国際関係のサービスが多くあることに、大半の学生は気づいていないかもしれないし、気づいても「ふーん」と流し目で終わるかもしれません。私もそのうちの1人でした。しかし今皆さんがいるのは三重大大学であり、留学に対して少しでも行動すればたくさん回答を出してくれる人が自分の周りにはたくさんいることを忘れないでください。私はその人たちに背中を押され、助けられ、念願だった留学をかなえることができました。その方々に深く感謝するとともに、より多くの方が三重大のすばらしさに気づき、世界に目を向けることができる場であることを知ってほしいです。

報告書記入日

2020年4月10日